

◆A 主として知識に関する問題

特に課題が見られた内容

「一文を二文に分ける」

「接続語を使って一文を二文に分けて書き直すこと」に課題がある。

(言語事項) 設問 8

	正答率	無解答率
本 県	15.8%	28.9%
全 国	14.7%	30.2%

「毛筆で書く」

「文字の大きさや配列に注意して書くこと」に課題がある。

(言語事項) 設問 9

	正答率	無解答率
本 県	29.2%	32.7%
全 国	29.0%	33.3%

指 導 上 の 工 夫

●文や文章の構成に注意して話したり書いたりする学習活動の工夫

- 文や文章の構成については、学年の段階に応じた指導が大切である。特に、高学年においては、単文、重文、複文などの構成について理解させることが重要である。そのためには、文について内容を論理的に関係づけた上で、接続語を使って複数の文に分けたり、内容のまとまりを簡条書きにしたりするなどの指導が大切である。
- 一文が長くなりすぎないように、接続語や文末表現を工夫しながら伝えたいことを簡潔に書かせる指導が大切である。

●文字の大きさや配列などを整えて書く学習活動の工夫

- 読み手への伝達効果を考えて文字を読みやすく書くために、漢字と平仮名の大きさのバランス、書き出しの位置、始筆の位置、行の中心と文字の中心、字間や行間などについて正しく理解させる指導が必要である。
- 学校生活の中で配布するポスターや新聞、パンフレット、案内状、礼状などを書く機会に、書写で学習したことを生かし、文字を正しく整えて書かせる指導が重要である。

◆B 主として活用に関する問題

特に課題が見られた内容

「調査報告文を書く」

「報告文を書く目的に応じて調べてわかった結果と調べた理由を関連付けて書くこと」に課題がある。

(書くこと) 設問 1二

	正答率	無解答率
本 県	17.9%	12.8%
全 国	17.7%	12.6%

「表をもとに話し合う」

「自分の立場や意図を明確にし、数値を根拠にして話し合うこと」に課題がある。

(話すこと・聞くこと) 設問 2二

	正答率	無解答率
本 県	26.2%	12.3%
全 国	25.7%	11.7%

「自分の考えをまとめるために読む」

「自分の考えを広げたり深めたりするために、中心となる語句や文に着目して筆者の考えをとらえること」に課題がある。

(読むこと) 設問 3二(2)

	正答率	無解答率
本 県	52.8%	15.8%
全 国	50.9%	16.4%

指 導 上 の 工 夫

●目的や意図に応じて、事実と意見とを関連付けながら書く学習活動の工夫

- 報告文を書くためには、全体を見通して内容を整理させることが大切である。そのためには、目的や意図に応じて必要な事柄を収集、選択した上で、構成させたり記述させたりする指導が重要である。
- 記述の際には、準備した取材メモや構成表を基にして自分の意見を的確に表現できているかを見直させる指導が大切である。
- 他教科・他領域における言語活動と関連付けた指導が必要である。

●資料や数値を根拠にして考えを話し合う学習活動の工夫

- 図表やグラフなどから読み取ったことを基に、自分の立場や意見と具体的な数値などを論理的に結びつけながら、自分の考えを明確にするなど、相手に分かりやすく説明する言語活動を充実させることが大切である。
- 討論会などを通して、討論の仕方を理解する。また、調べたことを話題として取り上げ、お互いの考えを出し合って討論する言語活動を充実させることが大切である。

●目的に応じて効果的に読む学習活動の工夫

- 文章を正確に読み取るためには、話題や筆者の意見、その根拠などをとらえるだけでなく、文章の構成や表現の工夫などにも着目させることが重要である。そのためには、文や文の構成、語句の使い方、文末表現などを吟味させる指導が大切である。
- テーマなどに即して多様な文章(報告や意見、解説や新聞記事等)として自分の考えをまとめ、発表し合う学習活動を充実させることが大切である。
- 自分の考えを広げたり深めたりするために、目的に応じていくつかの文章を比べて読むなどの学習活動を充実させることが大切である。

◆定着傾向が認められる問題

●文章中の必要な事柄を収集・整理し、内容に合わせて、小見出しを書くことは、多くの児童が身に付けている。

- 実験報告文の小見出しとして適切なものを選択する。(設問A 知識4 ウ正答率:県94.1% 国93.9%)

●学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を読むことは、多くの児童が身に付けている。

- 混雑(設問A 知識1 一(1) 正答率:県95.6% 国95.2%)
- 採集(設問A 知識1 一(3) 正答率:県83.2% 国80.0%)

(注) 課題が見られた内容は、「A知識」「B活用」両問題ともに正答率が低い5問を抽出し、その中から無解答の状況や領域などを考慮して「A知識」は2問、「B活用」は3問を選択しています。